

唐突の日本全国小中学・高校臨時休校要請、失策挽回の強権発動に保育所・学童保育は除外、至る所に混乱と戸惑い、稚拙な政策、果てはトイレトペーパー騒ぎまで
2月26日のゼミは、マルクス『資本論』第3巻第32章「貨幣資本と現実資本Ⅲ」を高田の報告で行いました。貨幣資本の蓄積は産業資本の蓄積と異なる。収入で消費されない部分・当面使用されない部分・引退資本は、貨幣資本に転化し、資本の処分権が仲介者の銀行業者に握られる。産業資本家は他人の貯蓄を自由に使用し、貨幣資本家は他人の貯蓄を自分の資本にする。貨幣資本家による自由な使用は産業資本家を搾取することである。貸付資本は貨幣の形態で実存するが、のちに貨幣に対する請求権として実存する。証券・株式の増加は投機取引を呼び、証券取引業者が貨幣市場の主役として新たな需要を作り出す。貨幣市場の集中・証券取引の中心地ロンドンでは賭博師一味が増大している。恐慌期には債務返済のため貸付資本需要が増大し利率が最高になる。恐慌回復期には貸付資本要求・貨幣資本が生産資本・商業資本に転化する。信用収縮・逼迫期には貨幣が唯一の支払手段となる。信用貨幣の減価は幻想的で自立的定在確保のため諸商品の価値が犠牲になる、何百万の商品が犠牲になるのは資本主義的生産で不可避であり「美点」の一つである。討論ではエンゲルスの「私の経験と一致しない」注釈は、短期の手形では利子は入り込まないことへの反論か、手形が短期でも割引利子はある、綿糸は45日手形、他では60日から90日手形も、業界により手形期日が異なる。30章から32章までの表題：Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでそれぞれの章の違い・テーマは何か。産業資本を視野に現実資本の源泉を示す。恐慌論はいつもマルクスの頭に問題意識であった。貨幣資本は貸付資本・利子生み資本として運動、貨幣資本・現実資本：二つの資本の蓄積の違いが問題。ここに“いかさま師”まで登場。エコロジカル・マルクス主義、人と人の関係だけでなく、人と自然の関係を論じる、公害・環境、農業、里山資本主義、等々。出席は、小野さん、高島さん、川口さん、大村さんと高田の5名でした。

*「ゼミたより」メール配信開始：メール配信のみ希望の方は連絡ください。

しばらく不参加の方にメール配信のみを、追って個別にお願いします。

*3月25日ゼミは資本論3巻33章の全部か、又は前半のみです。

*5月13日ゼミは、MMT理論ランダル・レイ：竹内さんの報告予定。

*次回の会場は、いつもの淀屋橋道修町・アイクルの部屋です。

***** ゼミ日程 *****

- 3月11日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
萩原伸次郎『世界経済危機と資本論』第5章 新自由主義論理 報告小野さん
- 3月25日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻33章 信用制度下の流通手段 報告大村さん
- 4月8日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
萩原伸次郎『世界経済危機と資本論』第6章・第7章 報告：竹内さん
- 4月22日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻34章 通貨主義・銀行立法 報告者未定
- その後 5/13, 6/10, 6/24 (アイクルの部屋) 7/8, 7/22, 9/9, 9/23